

羽衣石城関連年表

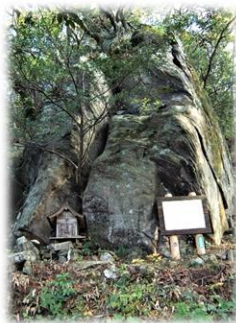
1341（暦応4）	出雲守護の塩冶高貞と妻子没。次男の貞宗が越前国南条郡に逃れる。
1366（貞治5）	南条貞宗が羽衣石城を築く。
1530年代	南条宗勝が尼子氏の東伯耆進攻に抵抗するも敗れ、尼子傘下に降る。
1540（天文9）	宗勝が尼子方で大内方の毛利氏攻めに参加し大敗。大内傘下に降る。
1542（天文11）	宗勝が大内方で出雲の尼子氏攻めに参加し大敗。但馬山名氏を頼り逃亡し、因幡・美作・播磨を放浪。
1562（永禄5）	毛利氏の台頭で尼子氏が衰退。宗勝が毛利氏の支援で羽衣石城に復帰。
1564（永禄7）	宗勝が因幡の鹿野城攻めを成功させ、毛利氏から東伯耆の統治を任される。
1575（天正3）	宗勝没。子の元統が家督を継ぐ。
1579（天正7）	元統が毛利から離反し織田方につく。
1580（天正8）	元統が秀吉の鳥取城攻めに協力し、因幡・東伯耆各地で毛利方と交戦。
1581（天正9）	鳥取城を落とした秀吉が東伯耆に逗留し、羽衣石城に武器や兵糧を補給。
1582（天正10）	城内で毛利方に通じた者達のクーデター勃発。元統は畿内へ逃亡。
1584（天正12）	秀吉・毛利間で領土交渉が行われ、元統が羽衣石城に復帰。
1591（天正19）	元統没。子の元忠が家督を継ぐ。
1600（慶長5）	関ヶ原の戦いで西軍について元忠敗北。改易となり羽衣石城廃城。その後、大坂冬の陣で元忠没。
1931（昭和6）	南条氏の子孫が全国に先駆けて、本丸跡にトタン製の模擬天守を建立。
1990（平成2）	現在のコンクリート製模擬天守完成。

※上記の年表の一部は後世の伝承等に基づいています

羽衣天女の伝説

あるとき羽衣石山に舞い降りた天女が水浴びをしていると、麓に住む農夫が岩の上に脱ぎ捨てられた羽衣を見つけて隠してしまった。天へ帰れなくなった天女は仕方なく農夫の妻となり、2人の子どもをもうけた。ある日天女は子ども達から隠し場所を聞きだして羽衣を見つけると、それをまとして天へ帰ってしまった。

2人の子どもは近くの山に駆け登り、鼓を打ち笛を吹き母が好きだった音楽を奏でたが、ついに母が戻ってくることはなかった。その後、天女が舞い降りた山は「羽衣石山」、2人の子どもが鼓を打ち笛を吹いた山は「打吹山」と呼ばれるようになったという。天女の夫を農夫ではなく初代城主・南条貞宗とする伝承もある。



天女が羽衣を置いた羽衣岩

鳥取県指定無形民俗文化財 東郷浪人踊

天正7年の南条氏と毛利氏の合戦は東郷池が真っ赤に染まったといわれるほど激しく、翌年の盆から東郷池のほとりで、戦死者の霊を弔うための踊りが始まり、毎年7月に続けられた。その後、関ヶ原の戦いにより羽衣石城が廃城になった翌年、各地に潜んでいた南条氏の浪人たちがどこからともなく集まり、黒紋付に身を包み菅笠で顔を隠し、三々五々の念仏踊りに加わって、夜明けとともにまたどこかへ散っていったという。

この踊りが後に「浪人踊」と呼ばれるようになり、昭和37年には県の無形民俗文化財に指定された。現在も毎年7月に開催される水郷祭で、地元保存会により行われている。



令和8年国史跡指定
南条氏の東伯耆支配の拠点となった

羽衣石城

うえしじょう



湯梨浜町天女キャラクター ゆりっぴん



お問合せ

湯梨浜町教育委員会

〒682-0723 鳥取県東伯郡湯梨浜町久留19-1
湯梨浜町教育委員会事務局生涯学習・人権推進課
TEL 0858-35-5367 FAX 0858-35-5387
MAIL yshogai@yurihama.jp

羽衣石城とは

羽衣石城は、伝承によれば南北朝期の出雲守護・塩冶高貞の次男・南条貞宗を初代城主とし、貞治5年（1366）に築城された。因幡国境に近く東伯耆を一望できる地理的重要性から、戦国期には尼子・大内・毛利・織田などの攻防により落城と回復を繰り返した。慶長5年（1600）関ヶ原の戦いで敗れ廃城となるまで、約230年間にわたり使用された。

標高372mの急峻な山の頂上に築かれ、東西66m、南北25mの主郭（本丸）を含む古城曲輪群と、北西の尾根上を中心とする3つの曲輪群が展開し、鳥取県内の中世城郭としては相当な規模を誇る。

主郭跡からは瓦の出土がなく、城は板葺または草葺であったとみられる。16世紀の陶磁器や土師器が多数出土し、この城が16世紀を中心に合戦時の籠城に実用されていたことがうかがえる。八幡平曲輪群からは礎石や柱跡、天目茶碗など茶事に関わる遺物が出土し、南条氏の居館跡とも考えられている。

昭和6年に南条氏の子孫が私財を投じて主郭跡にトタン製の模擬天守を建立し、平成2年に現在の天守へ改築された。戦国期の東伯耆の緊迫した軍事情勢を物語る山城として、平成13年に県の、令和8年に国の史跡に指定された。

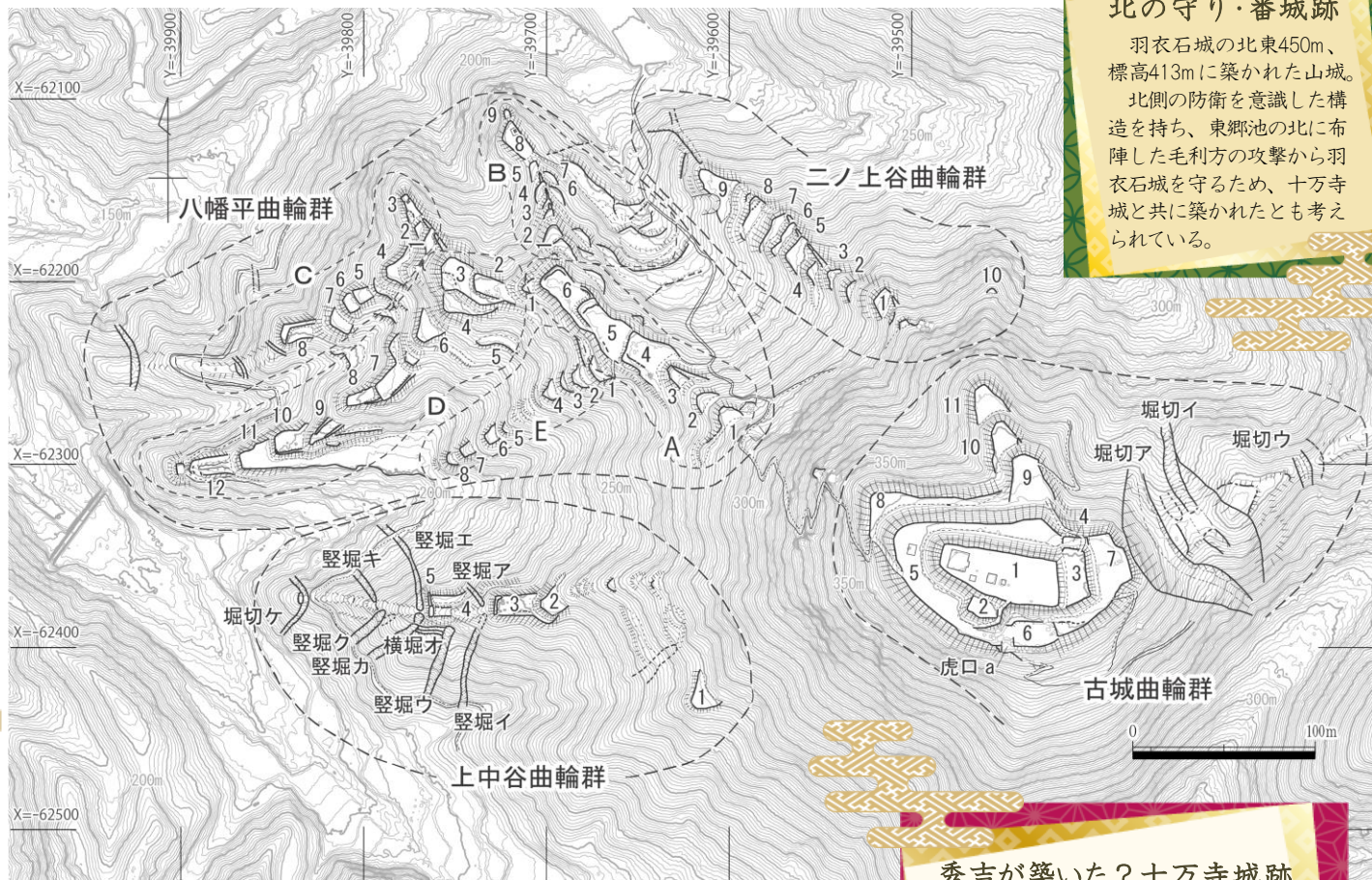
羽衣石城跡への行き方

J R 松崎駅から駐車場まで車で約10分

駐車場から本丸跡まで登山道を徒歩約30分



羽衣石城縄張図



北の守り・番城跡

羽衣石城の北東450m、標高413mに築かれた山城。北側の防衛を意識した構造を持ち、東郷池の北に布陣した毛利方の攻撃から羽衣石城を守るため、十万寺城と共に築かれたとも考えられている。

秀吉が築いた？ 十万寺城跡

羽衣石城跡の850m南方、標高432mの山中に、織豊系の特徴を持つ大規模な山城遺構が残る。伝承では、南条氏が羽衣石城を築く前に城を築こうとした地とされる。

天正年間、秀吉の鳥取攻めに協力したことで毛利方からの攻撃を受けていた羽衣石城の南条氏に物資を補給するため、秀吉が築いた陣城ではないかと注目されている。



山頂部の城郭遺構